



くすのき



令和4年(2022年) 5月26日

文責:校長


熱中症にご注意を



5月も後半に入り、いつもより早めの梅雨入りの気配です。6月には水泳指導が始まります。まだまだ寒暖の差を感じながら、子どもたちも学校生活を送っています。厳しい気温の上昇、湿度の変化にも十分留意しながら暑さ対策等、慎重に進めていきたいと思えます。具体的に熱中症における事故防止のため、以下のように対応します。

加えて、新型コロナウイルス感染防止についても、引き続き、十分な注意を払い、手洗いや咳エチケット等の防止対策を徹底し、未然防止に努めたいと思えます。ご家庭や地域の皆さまにおかれましても、さらなるご理解・ご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

1. 学校への持ち物

<p>(1) 必ず持ってくるもの</p> 	<p>①水筒 *ご家庭で相談していただき、十分な量のお茶・水・スポーツドリンク等を用意してください。2本持ってきててもかまいません。 *やむを得ず、持参した量が不足した場合は、500mlのペットボトルのお茶を1本お渡しします。翌日以降に、学校へ同等品をお返しください。</p> <p>②汗拭きタオル ③黄帽、体操帽</p>
<p>(2) 登下校時に使用してよいもの</p>	<p>①日傘 ②濡らして首に巻くような保冷ベルト ③濡らしたタオル ④保冷剤 *いずれも壊れたり、紛失しても困らないものにしてください。個人の責任として必ず名前を記してください。学校では管理しません。</p>
<p>(3) 持ってこないもの</p>	<p>①うちわ ②扇子 ③携帯用扇風機 ④冷却スプレー 等</p>

◇校外で長時間活動する際には、担任から「熱中症予防のための準備」等、別途連絡させていただくこともあります。ご了承ください。





2. 熱中症対策 【施設や準備物】

場所	対策の内容
(1) 教室・特別教室	<p>①コロナ感染防止対策のため冷房中においても換気を行います。 ②教室内の空気を循環させるため、扇風機を活用します。</p>
(2) 体育館	<p>①スポットクーラーを設置します。</p>
(3) 運動場	<p>①テント等を設置し、日陰を設けます。 ②トイレ付近の樹木を利用し、簡易ミストシャワーを付け、気化熱を利用して体温上昇を防ぎます。</p>

(4) 職員室	<p>①「熱中症対策グッズ」を準備し、体育や校外での活動時には活動場所に持参します。 [熱中症対策グッズ]とは、クーラーボックス内に ・冷却剤 ・経口補水液 ・食塩 ・体温計 ・紙コップ ・うちわ ・タオル ・霧吹き ・氷 等を収納しているものです。</p>
---------	--

【子どもたちへの指導】

対応者	対策の内容
<p>(1) 学級担任(授業者)</p> 	<p>①子どもたちの健康状態をこまめに把握するように努めます。 ②子どもたちには、体調不良時にはすぐに教員やまわりの友だちに伝えるよう指導します。熱中症のサインについても、指導します。 ③熱中症情報の測定値等を参考にしますが、値のみを過信せず、子どものようすや体感温湿度により適切な対応をします。 ④授業前後の水分補給を行い、活動の途中でも随時休憩・給水を取り入れながら、無理のない運動や学習を心がけます。 ＊体育科等の学習では、15分ごとに1回程度、「給水・休憩タイム」を設けます。 ⑤場合によっては、屋外での活動を見合わせる等の対応を取ります。</p>
<p>(2) 校長・教頭・教務 ・養護教諭</p> 	<p>①毎日、学校の校庭や体育館の暑さ指数(WBGT)を計測します。 ②毎日、暑さ指数については「環境省熱中症予防情報」より確認し、実測値・予想値については、職員に周知します。 ③熱中症情報について、校内掲示板で知らせたり、校内放送で注意喚起します。 ④環境省や日本スポーツ協会が示す「熱中症予防のための運動指針」に則って対応するよう、職員に周知します。</p>



◇場合によっては、校舎外での活動を変更したり、中止する場合があります。子どもの安全を第一に対応いたしますので、ご理解の程よろしく申し上げます。

3. 暑さ指数(WBGT)と学校の対応

暑さ指数(WBGT)とは

人体と外気との熱のやりとり(熱収支)に着目した指標で、人体の熱収支に与える影響の大きい
 ①湿度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温 の3つを取り入れた指標です。
 単位は気温と同じ摂氏度(°C)で示されます。労働や運動時の熱中症防止に用いられます。

暑さ指数(WBGT) 乾球温度(目安)	日常生活における熱中症 予防指針(日本生気象学会)	熱中症予防のための運動 指針((公材)日本スポーツ 協会)	学校生活を安全に 過ごすために
<p>WBGT 31°C以上 乾球温度 35°C以上 危険(運動は原則禁止)</p>	<p>外出はなるべく避け、涼しい室内へ移動する。</p>	<p>特別な場合以外は運動を中止する。特に子どもの場には中止すべき。</p>	<p>体育などの運動は中止。屋外や体育館での活動は、中止または活動時間の短縮。</p>

<p>WBGT 28~31℃ 乾球温度 31~35℃</p> <p>嚴重注意(激しい運動は中止)</p>	<p>外出は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。</p> 	<p>熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。運動する場合には、頻繁に休息を取り、水分・塩分の補給を行う。体力の低い人、暑さに慣れていない人は運動中止。</p>	<p>激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は原則中止。なお、健康チェックや水分・塩分補給など健康管理を徹底し、練習内容、場所、時間、服装などに配慮したうえで活動することが可能。体力等個人の条件、体調を考慮し、運動を軽減、中止する。</p>
<p>WBGT 25~28℃ 乾球温度 28~31℃</p> <p>警戒(積極的に休憩)</p>	<p>運動や激しい作業をする際は定期的に十分に休息を取り入れる。</p>	<p>熱中症の危険が増すので、積極的に休息を取り、適宜水分・塩分を補給する。激しい運動では、30分おきくらいに休息を取る。</p>	<p>積極的に休息を取る。激しい運動の場合は、30分おきに1回以上の休息を取るとともに、水分・塩分を補給する。</p>
<p>WBGT 21~25℃ 乾球温度 24~28℃</p> <p>注意(積極的に水分補給)</p>	<p>激しい運動や重労働時には発生する危険性がある、</p>	<p>熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。</p>	<p>運動の合間に積極的に水分・塩分補給を行う。</p>
<p>WBGT 21℃未満 乾球温度24℃未満</p> <p>ほぼ安全(適宜水分補給)</p>	<p>...</p>	<p>通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。市民マラソン等では、この条件でも熱中症が発生するので注意。</p>	<p>適宜水分・塩分補給を行う。</p> 

4. マスクの取扱いについて

マスクの着用については、これまでから原則着用をお願いしてきたところですが、詳細については文部科学省「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」、滋賀県教育委員会「学校における新型コロナウイルス感染症対策と学校運営に関するガイドライン」に基づき、本校でも引き続き次のように対応いたします。ご理解・ご協力をよろしくお願いします。

学校教育活動においては、児童や教職員は、身体的距離が十分とれないときは、原則マスクの着用をと考えています。

ただし、着用については、教育活動の内容や児童のようす等を踏まえ、以下のとおり臨機応変に対応します。

- (1) 十分な身体的距離が確保できる場合は、マスクの着用は必要ありません。
- (2) 気温・湿度や暑さ指数(WBGT)が高い日には、熱中症等の健康被害が発生するおそれがあるため、マスクを外します。
*熱中症も命にかかわる危険があることを踏まえ、熱中症への対応を優先します。
*児童本人が暑さで息苦しいと感じた時等には、マスクを外したり、一時的に片耳だけにかけて呼吸する等、自身の判断でも適切に対応できるよう指導します。
- (3) 体育の授業においては、マスクの着用は必要ありません。ただし、十分な身体的距離が取れない状況で、十分な呼吸ができなくなるリスクや熱中症になるリスクがない場合には、マスクの着用を促します。

